

麻烦也高兴 ～「面子」と「朋友」の国から～

中華人民共和国 天津市での3年間

前 天津日本人学校 教諭

北見市立相内中学校 教諭 齊藤 修

(派遣期間 平成19～21年度)

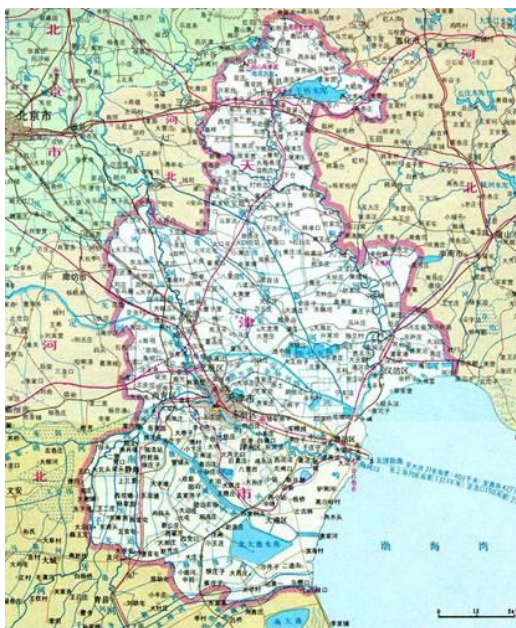
1 都市概要

<地理>

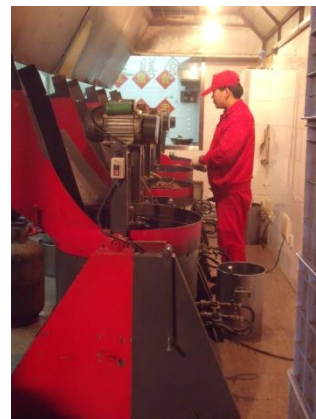
まず聞かれます。「天津ってどこ？」自分も行くまで知りませんでした。ここ↓です。



天津は北緯 39°（緯度で言うと秋田・岩手あたり）東経 117°、北京市と渤海湾の間にあります。華北平原の東北部にあたるので山間部が少なくほとんどが平地です。そのため、北京の隣、直轄地の1つという都市部でありながら自転車・電動自転車の利用がとても多いです。



ちなみに、「天津甘栗あるの?」。日本で言う「天津甘栗」は、北京と天津をとりまく河北省が栗の産地で、天津に集められ輸出されていたので天津という名前がついています。市内では、「小宝栗子」という甘栗チェーン店が有名です。



甘栗を作っているところ↑

<気候>

大陸性気候に属します。わかりやすく言うと「熱しやすく、冷めやすい」。日本と同じように四季がはっきりしていますが、春と秋は短く感じられます。降水量が 520～660 mm で 6～8 月に集中します。冬は、-15℃まで下がる時もありますが、雪はいたって少ししか積りません。冬は乾燥し、風が強いため、寒さは身を切られるような感じがし、北海道の寒さとは別のものがあります。

1年を通して雨が少ないので、地図を見るとたくさんのため池があり、近年では雨雲が近づいたときにミサイルを撃ち込んで人口雨を降らせることもありました。また、この方法は、国慶節やオリンピックのような世界的イベントの前に、確実に天気をよくするためにも使われました。

珍しい雪景色

→



<人口>

1228.16 万人(2010 年 7 月 26 日天津市政府発表)

<産業>

渤海湾地域の経済的中心地であり、中国北方最大の対外開放港です。首都北京市とは高速道路 0.5 時間以内で結ばれています。市区の中心を海河という川が流れており河口の塘沽に大規模な港湾やコンテナターミナル、工業地帯が形成されています。近年第 2 の上海を目指すべく渤海湾沿岸の工業地帯を開発し、多くの企業を誘致しています。



日系企業の見学

<治安>

日本国外の中では、安全な都市だと感じられました。夜 1 人で出歩いても問題ありません。ただし、オリンピック前の建設ラッシュの時には、国内からの出稼ぎ労働者が増えてくるので、特に安全面で注意を払うよう連絡がありました。普段の生活では、スリに気をつけるとかごく普通の注意をしていれば犯罪に巻き込まれることはありません。

気をつけなければならないのは交通事故で、日本のような「歩行者優先」という考え方はありません。もたもたしているとクラクションを鳴らされ、赤信号でも侵入してくる車、音もなく忍び寄る電動自転車、広いので



いそいで渡らないと途中で信号が変わる横断歩道など路上は危険がいっぱいです。また、自動車を運転する時、シートベルトをする習慣が定着し

ておらず、なおかつタクシーに乗るときは助手席が多いのである程度の覚悟が必要でした。

(写真はメインストリート 南京路)

<教育>

日本と同じ小学 6 年・中学 3 年・高中 (高校) 3 年・大学 4 年のシステムです。

小学生の赤いリボンは優等生の印。一人っ子政策のため、子どもは一人しか作れず (農村や姓を残すための特別措置もあります) 親は子どもをとっても大切にしています。朝と帰りは、自転車や車で送り迎えがあり学校前の道路は、毎日渋滞になります。

中学生は、制服ではなく指定ジャージのような服装で登校します。

現在の中国は典型的学歴社会で、どの学校に進学するかがその後の人生に大きな影響を及ぼします。そのため、大学受験に向けて夜遅くまで学校で勉強する高校生がたくさんいます。大学生も「勉強が忙しくてバイトなんかできない」そうです。

(希望小学校)

5 大直轄地のひとつ、天津市といってもとても広く、都市部を除いては農村が広がっています。特に北部に行くと山があり、長城の一部もあります。農村になると学校がなく、外国企業が援助して学校を作る場合があります。そのとき企業名をとって「〇〇希望小学校」という名前をつけます。ちなみに天津市北部にあるのはコカコーラ希望小学校です。



路上金魚屋さん

<生活>

赴任の前に校長先生が東京にいらっしゃっていろいろと教えてくださる、という機会がありました。人事関係はまだ決まっていないので、こちらからの質問は生活面のことがほとんどでした。校長先生曰く、「なんでもあります。」なるほど、さすが世界の工場であるなあと感心しました。行ってみたら確かになんでもあったんですが…。ほしいものを見つけるのが大変でした。市場や専門店街に行けば同じようなものがたくさん並んでいて目が回る。目指す専門店がなかなか見つからない。見つかったものは、使ってみるとちょっと残念だったりする。



←路上
dvd屋
さん

1枚
150円

そんなわけで、買い物に関する情報はとても貴重で、日本人（特にご婦人がた）の間では連絡の回転はとても速いのです。



ジーンズ屋さん
必要な時だけ布を張
って試着室完成

<環境>

赴任した当時は、中国が工業生産に力を入れ環境よりも生産を重視していました。そのため天津市でも大気汚染がひどく、毎日「汚染指数」という空気のきれいさを表す数をチェックし、ひどい

時は外遊びなしということもあります。また、4時くらいになると夕焼け空のようになり、調べてみると日本が高度成長期に同じような現象があったことが分かりました。そんな天津も、オリンピックの開催を控え、急速に環境の改善が図られ



↑北京まで30分の新幹線(日本型とドイツ型)

ました。市政府から企業への指導だけでなく、市内の清掃員を増やしゴミも少なくなっていました。

今年4月からは、ゴミのポイ捨て条例もでき、違反者には罰金も科せられます。これは、シンガポールを参考にしたものらしいです。オリンピック以降は、明らかに青空が見られる機会が増えました。すぐに実行に移せるところが中国のすごいところだと思います。



路線バス→

老人・子ども連れが乗ると、すぐに席を譲ります。



骨董品屋さん 目利きができれば宝の山

学校概要



日本人学校外観

1. 学校教育目標

確かな学力を持ち、心豊かにたくましく生きる
児童、生徒の育成

すべての教育活動において、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」を合言葉に教育目標実現に向けて実践を重ねています。



児童生徒会の企画、下級生と一緒に
お弁当
「ハオチーランチ」

2. 沿革と児童生徒数

平成8年度(1996)

会賓園飯店の一部を利用して天津日本人補習授業校がスタートしました 在籍6名

平成9年度(1997) 在籍14名

天津日本人学校設立準備委員会を天津日本人補習授業校運営理事会に設置

平成10年度(1998) 在籍29名

天津日本人補習授業校閉校式

平成11年度(1999) 27名

九河国際村にて日本人学校スタート

平成12年度(2000) 29名

平成13年度(2001) 40名

平成14年度(2002) 49名

平成15年度(2003) 50名

平成16年度(2004) 70名

平成17年度(2005) 70名

平成18年度(2006) 152名(新校舎完成)

平成19年度(2007) 197名

平成20年度(2008) 215名

平成21年度(2009) 181名

平成22年度(2010) 194名

平成18年度から急激に人数が増え、現在の校舎に移転しました。

3. 教職員

日本国派遣教師14名

(校長1・教頭1・教諭12)

学校運営理事会採用教師6名、

中国語講師3名、英会話講師1名、事務職員3名

4. 学校生活始業

8時20分～終業15時45分

弁当持参(小学部1年・2年は5時間授業日あり)

月に2度「給食当番を体験する」目的で、カレー・丼物の給食のようなものを保護者会で準備していただきました。

5. 特徴

1 人数の変化とその対応

当然保護者は企業から派遣されているわけですから世界経済の影響を直接受けます。年度末はいつも多くの児童生徒が本帰国しますが2008年度の年度末は、世界金融恐慌のあおりを受けて企業の多くが単身赴任に切り替えたことから、50人もの転出がありました。

普段の生活の中で友だち同士遊ぶ機会が少ないので学校が友だちと遊べる一番の場になっています。お互いにいつ会えなくなるかわからないという状況で生活しているため、人間関係は良好です。天津日本人学校では、「少人数」の「学年を超えて仲が良い」という点を生かして縦割の活動を多く取り入れています。毎日の下校班や清掃

班、行事ごとの実行委員、委員会活動、児童生徒会主催のイベントなどがそうです。

しかし、急激な人数の変化から学年により多いクラスで 30 人以上、少ないクラスで数名という差ができてきました。そのため、年度初めに縦割りで実施していた中国文化の体験学習をクラス単位で実施し、担任が児童生徒の様子をつかんだり、クラス内の交流や活動の時間を確保できるようにしました。

また、以前は体験学習・交流会・運動会・学習発表会は、「実行委員会」形式で実施していました。これは、児童生徒数が少ない中で多くの子どもたちに活躍のチャンスを与え、一人ひとりが主人公やリーダーになれるようにという願いが込められていたためです。その後、人数が増え自分が赴任の前年から児童生徒会が組織されました。ところが、実行委員会形式はそのまま残されたので、実行委員会と児童生徒会というリーダー的組織が 2 つ存在するという形になりました。赴任 2 年目は、その組織の煩雑さを特別活動の担当の先生を中心に整理することができました。

よいものを残していきたいという願い、3 年間という短期間で教師が入れ替わる現状で学校の組織やシステムを変えることはとても難しいことですが、今後しばらくは継続していけるものを残せたと思います。

2 体験の重視

日本では体験できないことができてしまうのが在外の大きな特徴です。(生きていくことがすでに大きな体験ともいえますが…)

天津でも、学校行事や授業の中で日本の学校以上に体験を重視し、実行してきました。

<社会科>

小 3 伊勢丹見学

路線バス乗車と古文化街買い物ツアー
地図を作ろう

消防の仕事を知ろう

小 5 トヨタ第 3 工場見学

<家庭科>

小 6 市場で材料を購入して調理実習・布バック制作

<行事>

小 5 宿泊学習

- ・長城を歩こう
- ・漁師体験（船に乗って底引き網）
- ・雑技の村で雑技を習おう

小 6 修学旅行

- ・自分たちで食べる麺作り
- ・兵馬俑を作ろう

中 3 修学旅行

- ・雑技を習おう
- ・リニアモーターカーに乗ろう

3 総合的な学習の時間の工夫

「意外と話さない中国語」

中国にいると「中国語なんてすぐに話せるようになるんでしょ?」と言われる。予想に反して、短いサイクルで転入・転出をすることや、日本人学校に来れば日本語で十分、ということから苦手な子が多いのが現状です。その中で、中国語担当の先生は初心者からペラペラの上級者までいるクラスを担当して週 1 時間で成果を上げなければならないので大変です。

そこで交流会では、

- ①全学年最低限使う言葉：自己紹介をする
 - ②学年ごとのゲームで使う言葉：左右の方向など
 - ③一緒に歌える歌を練習する
- を設定し、学年ごとに練習を重ねました。その結果、全員が話すこと・聞くことの練習の成果を出すことができました。

「英会話」

全学年週 1 時間ずつ確保しています。国際的に流通している英語と地元の中国語の 2 つを総合的な学習の時間の中で進めています。

「国際理解」

せっかく中国にいるのだから、楽しんでいこうと

いう気持ちで取り組んでいます。

4月 中国文化の体験学習と発表会

学年ごとに、泥人形・剪紙・餃子・拳法・年画・中国茶・京劇を学習します。

11月 現地校との交流会

小学部 麗苑小学校が来て、同じ学年の子と自分たちで考えたゲームや遊びをしました。

中学部 インター校で開催されているUN-DAYというイベントに参加して、和太鼓を披露したり、日本の遊びを紹介しました。

2月 学習発表会

1年間の学習の成果を、クラスごとに発表します。

4 健康

<新型インフルエンザ>

赴任3年目の春に、新型インフルエンザの大流行がありました。

2009年4月28日 フェーズ4

この時点で、旅行中の職員も途中で引き返し、自宅待機

4月30日 フェーズ5

鳥インフルエンザと異なり、弱毒性であることから、以前から作られていたマニュアル通りに行動することが現実的ではありませんでした。そのため、今回の新型インフルエンザへの対策や今後の動きを確認しました。幸い校長・教頭・教務が同じ建物内で生活していたため、校外での連絡相談がしやすい状況でした。

また、5月に中3の修学旅行を計画しており、その実施について検討した。その時点での感染者数が多くなかったことから、実施の方向で検討し、保護者にも了解を得ました。

旅行中は、上海から杭州まで新幹線での移動があり、人込みの中ではマスクをするようにしました。

6月12日フェーズ6

市当局から感染地・国に旅行した場合、1週間の自宅待機の指示が来ました。

夏休み以後は日本人学校内でも、少しずつインフ

ルエンザ様の症状が出始めましたが、だんだんと感染府が増え検査キットが不足していたために確実な罹患数の把握が難しくなりました。登下校時のマスク着用、毎日の検温や手洗い・うがい・消毒など地道な努力を続けましたが、閉鎖になった学年もあり、学校生活に大きな影響が出ました。

<運動不足>

中国の生活では、バスが15～30円、タクシーが3kmまで120円と安いので、外出の際はどうしても歩くことが少なくなります。また、旧校舎は校庭がなかったので、運動会は、近くの小学校のグラウンドを借りていました。そこで、天津日本人学校では、小4以上で週3回（冬季は1回）スポーツ活動の時間があります。バスケット・バレー・卓球・サッカー・ハンドボールの中から選びます。現在は、新校舎に移転し、広い体育館・グラウンド・プールも備えられており、体力面でも向上が期待されています。また、サッカークラブが作られたり、大人と一緒にテニスを習ったり、少林拳を習うなど、校外でのスポーツ活動の機会も増えてきました。



中3 修学旅行 本番前の上海雑技団に雑技を習う。この後、雑技を鑑賞。難しさがわかるだけに、さらに手に汗握る鑑賞となった。



小学部麗苑小学校との交流会
あやとりを教える小3の子たち



小5 宿泊学習で北部の農家に泊まる
これだけの料理が出て、ひとり300円くらい
しかも新鮮な野菜でおいしい



学校周辺はまだ開発中。集中豪雨で洪水発生。
車はよく見ると、3輪トラックです。



学習発表会で和太鼓の演奏をする小5の子達



家庭科の調理実習。熱源が電気なので時間がかかる。



運動会 小3・4「台風の日」地面は人工芝



体験学習 中2は中国茶の入れ方を本格的に習う

<個人的な感想>



公園の大きなテレビでオリンピックの開会式を見る



お茶の量り売り

たくさんの経験をした中で、特に印象に残ったのは天津人のやさしさです。

日本人のために涙を流してまで同胞を説得する通訳兼事務員の張さん。

バスや地下鉄に乗れば茶髪の兄ちゃんでも老人子ども連れに席を譲り、荷物が多ければ「持ってやる」と座っている人が立っている人に声をかける。

道を聞いてそのとおりに歩いていたら、ややしばらくしてから「間違えた!」と走ってきて正しい道を教えてくれるおばさん。

中国にいるときは自分がおごる、と毎回食事代をはらってくれた運転手の丁さん。彼には買い物にもよく付き合ってもらい、教材など安くすませることができました。

遊びに行ったら、3時間も前から食事の準備を

してくれるやさしい二胡の先生のだんなさん（初対面）。帰りは、雪の中仕事用の路線バスで一時間の距離を送ってくれました（ホントはダメだったらしい）。

タイトルの「麻烦也高兴」（麻烦：面倒なことでも 高兴：うれしいんです）は、餃子づくりを教えてくれた少林拳の張先生の言葉です。「中国人とは」、とひとくくりで説明することは難しいことですが、自分が出会った人たちは、底抜けに面倒見がよく笑顔の明るい人たちばかりでした。

お世話になった、たくさんの人に「謝謝！」



羽田空港に着いたら、先に帰国していた先生たちが迎えてくれました。